

# 福岡市に生育する植物(山地・森林編)

## 見られる植生

### 見られる貴重な植物



#### ■キンラン

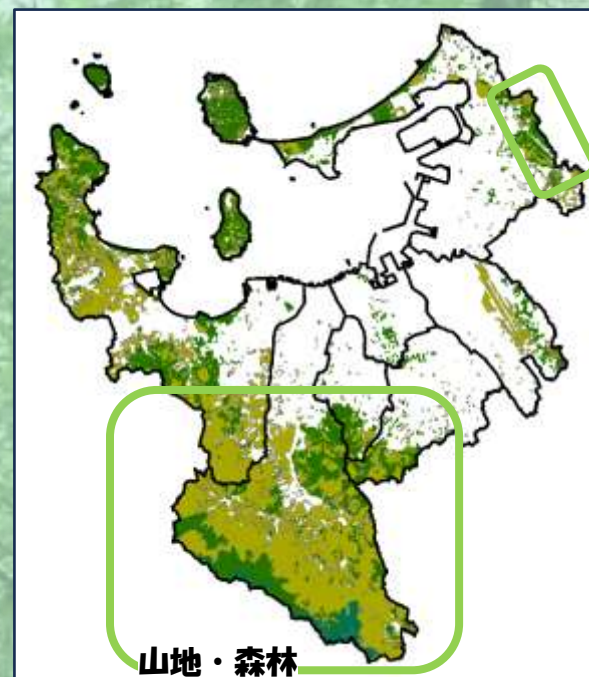
山地や丘陵地に見られるランの仲間です。光合成だけでなく、春には地中の菌類からも栄養を貰って生活しています。

#### ■エビネ

山地や丘陵地に見られるランの仲間です。きれいな花をつけるため、採集によって大きく数を減らしています。

#### ■ウスギムヨウラン

地中の菌類に栄養を貰って育ちます。花の真ん中が薄紫に色づくのが特徴です。



山地・森林



#### フナ林

福岡市では標高900m前後の内陸に見られます。落葉広葉樹(ブナ・ミズナラ等)が中心となり、林内にはササ類や落葉する植物が多い森林です。



#### アカガシ林

九州のほぼ全域に分布し、比較的涼しいところに見られます。常緑のカシ類(とくにアカガシ)が中心となり、林内にはハイノキ・シキミなど常緑の植物が多い森林です。



#### ■ウンゼンカンアオイ

山地に見られ、紫色の花を地面近くにつけます。地面で生活する虫などに花粉を運んでもらっていると考えられています。

#### ■ヒナ/シャクジョウ

地中の菌に栄養を貰って育ちます。地上に姿を現すのは花を咲かせ実をつくる短い間だけです。

#### ■アケボ/シュスラン

山地に見られ、8月~9月にかけてピンクがかった花をつけます。

#### ■ルリミ/キ

山地にみられ、夏には白い花を、秋には瑠璃色のきれいな実をつけます。



#### シイ林

福岡市では沿岸から内陸まで広い地域で見られます。常緑のシイ類やタブ類(クスノキ・タブノキ等)が中心で、林内にはアオキやイズセンリョウなど常緑の植物が多い森林です。

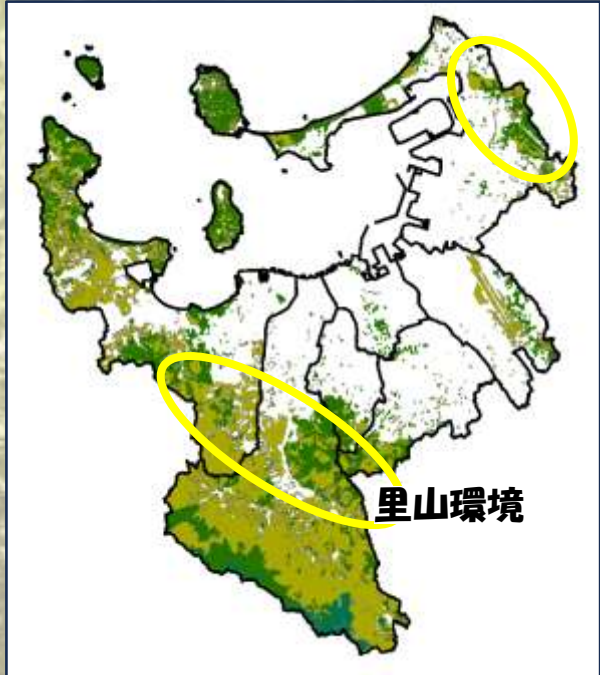
### 見ごろ: 春 夏 秋

福岡市を取り囲む山々には、多様で豊かな森林が存在します。標高1000mを越える背振山地や、油山、立花山など中規模の山地があり、それぞれ気候や立地条件によって異なる森林が成立しています。背振山地のブナ林や立花山のクスノキ林など、見事な大木を見られる森林も残っています。福岡市内でみられる主な森林の様子と、そこで見られる貴重な植物を紹介します。

# 福岡市に生育する植物(里山編)

## 見られる植生

### 見られる貴重な植物



**アカマツ・コナラ林**  
まき・炭などの燃料を得るために間伐されることで保たれてきた森林ですが、近年は利用されず常緑樹林へ変わる場所が多く見られます。アカマツ・コナラ等が中心で、林の中が比較的明るい森林です。



**シイ二次林**  
まき・炭などの燃料を得るために利用されていた森林で、常緑のシイ・タブ類が中心で、比較的若い森林です。



**草地環境**  
ため池の周りなど、定期的な草刈りによって保たれている草地で、ススキが中心となることが多い場所です。三日月山山頂の草地も、定期的な草刈りによって維持されています。

#### ■ウスギワニグチソウ

アカマツ・コナラ林など明るい森林で見られます。朝鮮半島や対馬にも分布し、福岡市が最も南の生育地です。

#### ■フナバラソウ

山野の日当たりのよい草地で見られます。野焼きや草刈りの行われる、背の低い草地にしか見られません。

#### ■/ヒメユリ

山野の草地で見られます。日本のユリのなかで花も丈も最も小さい種です。



#### ■シンジュガヤ

日当たりのよいやや湿った草地で見られます。真珠に似たクリーム色の丸い実をつけます。

#### ■キキョウ

山野の日当たりのよいところに見られます。7~9月に青紫色の花をつけます。

#### ■シタキソウ

山地に見られるつる性の植物です。枝に傷をつけると白い乳液が出てきます。

#### ■オケラ

アカマツ・コナラ林など明るい森林に見られます。葉が固く縁が鋭いのが特徴です。

### 見ごろ: 春 夏 秋

農林業やまき・炭の生産などを目的に、間伐や草刈りなど人の手によって維持管理されている場所を里地・里山といいます。田んぼやため池など周辺の区域を含め里山環境と呼ばれますが、福岡市では都市化が進み、西区、東区、早良区の山地・丘陵地との間にわずかに残されています。全国的にも里山環境は減少しており、そこに生きる動植物も数が減っている傾向にあるといわれています。福岡市内の里山にも、貴重な植物が多数生育しています。

# 福岡市に生育する植物(低地・海岸編)

## 見られる植生

### 見られる貴重な植物



■ **ミコウジュ**

ため池や農地の畔など、湿地や湿った草地に見られます。



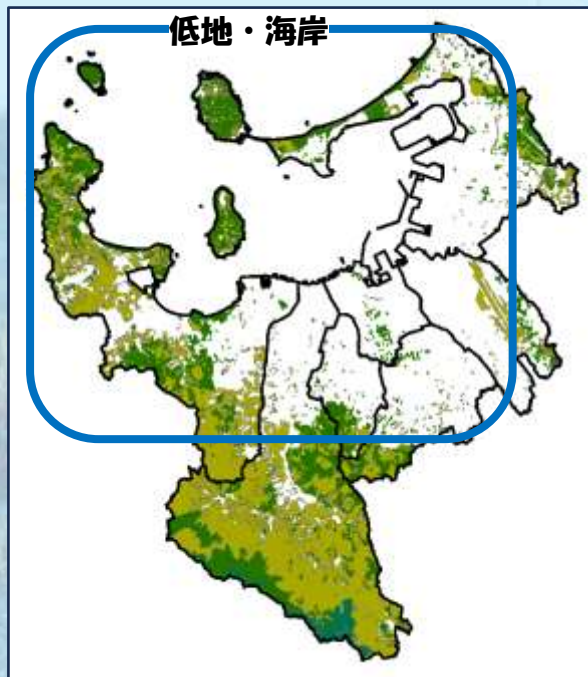
■ **ツクシオオガヤツリ**

ため池などに生える植物で、日本ではほぼ福岡市にしか生育していません。福岡城のお堀で初めて発見されました。



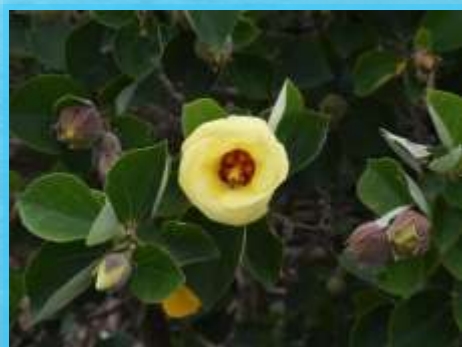
■ **カワラサイコ**

川原や海辺に見られます。砂や石の多い場所に生え、乾燥に強いのが特徴です。



**クロマツ林**

防風や砂防のために植えられたクロマツの森林です。林内には主にイネ科の植物が見られます。



■ **ハマボウ**

内湾や河口の湿地に見られます。海岸近くの公園や道路にも植えられることがあります。



■ **ハマサジ**

海岸や河口の湿地に見られ、しばしば群生します。小さな黄色い花が、穂のように集まってつきます。



■ **ウラギク**

海岸や河口の湿地に見られます。全国的に生育環境が減少しています。



■ **イヌセンブリ**

ため池の周辺の明るい湿った場所に見られます。縮れた長い毛のある特徴的な花をつけます。



**砂丘植生・海岸断崖地植生**

強い潮風の影響を受ける環境で、乾燥や強風に耐えられる植物が生育しています。



**塩沼地**

潮の満ち引きによって海水の影響を受ける湿地で、満潮時には水没するような場所もあります。ヨシやハママツナなど、塩水に耐えられる植物が生育しています。

見ごろ: **春** **夏** **秋**

福岡市の海岸沿いには、干潟や砂丘をはじめ様々な自然環境が広がっています。とくに、和白干潟には海浜植物の群落が広がる貴重な環境が残っており、ここでみられる風景は日本の海岸の原風景といえるでしょう。また、福岡市を流れる那珂川、室見川、多々良川のような河川、市街に残るため池や農地などにも貴重な植物が確認されています。これらの環境は水や海水と関係する特別な環境のため、その環境にしか生育しない植物も多いのですが、土地の改変など人の利用による影響を受けやすいため、注意が必要です。